

感染症発生動向調査事業における宮崎県の患者発生状況
—平成 21 年（2009 年）—

山下美恵子*¹・中島節子*²・境田昌江・川畑紀彦

**Summary of the 2009 Annual Report According to the National Epidemiological
Surveillance of Infectious Diseases in Miyazaki Prefecture.**

Mieko YAMASHITA, Setsuko NAKAJIMA, Masae SAKAIDA,
and Norihiko KAWABATA

Abstract

In the Infectious Disease Surveillance System of Japan, the continuous periodic survey of infectious diseases of Miyazaki prefecture has been carried out since 1999, as being one of the members of that system.

The information of infectious diseases obtained from this system (85 hospitals in the prefecture are included) mentioned above is mainly for pediatric field and has been greatly of use for citizen and medical staff in respect to preventing communicable diseases from spreading in their inhabiting areas or keeping their public health in good shape, by publishing weekly and monthly compendium.

The incidence of infectious diseases assigned by the law of this prefecture, summarized for 2009, has reported this time.

Overall, tuberculosis was found among the people aged from 2 to 90, but there was higher incidence rate among the elderly, as shown everywhere in the country. As to typhoid fever, rarely enough, a case of this disease appeared after 6-year absence. This case was considered to have gotten the sick in a foreign country.

As to influenza including so-called pandemic influenza, two infection peaks were observed. First peak was seen during 6~10th week of the year and second one was during 43~53th week. The etiologic virus in the former peak were consisted of A1, A3, and B types of influenza and all viruses found in the second peak was the pandemic type(AH1pdm). Pandemic influenza, originating from Central America in May to April of this year, started to spread at the middle of June and lasted until the beginning of the next year in this area.

Other infectious diseases of pediatrics and venereal infectious diseases, ophthalmic infectious diseases seemed to go through on almost the same level as in usual years.

Key words: Infections Disease Surveillance System, Miyazaki , pandemic Influenza.

はじめに

当所では、平成 11 年より宮崎県感染症情報センターとして、感染症発生動向調査事業に基づい

て感染症情報の収集と解析を行ってきた。解析した情報は週報や月報として医療機関や県民に還元し、感染症の拡大防止や公衆衛生の向上に努めている。

*1 非常勤職員 *2 委託職員

今回、宮崎県における平成21年(2009年)の患者発生状況をまとめたので報告する。

調査方法

1. 対象疾患及び定点医療機関

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、感染症法)」で定められた103疾患を調査対象とした。

定点医療機関は、感染症発生動向調査事業実施要領に基づき選定した(Table 1)。

2. 調査期間

全数把握対象疾患については平成21年1月1日から12月31日まで、定点把握対象疾患については平成21年1週から53週まで、インフルエンザについては平成21/22年シーズンの平成21年41週から平成22年14週までをそれぞれ調査期間とし、いずれの疾患も報告日をもとに集計した。

結果

1. 全数把握対象疾患の発生状況

1) 一類感染症

報告はなかった。

2) 二類感染症

a) 結核 Tuberculosis

報告総数は251例で、前年の約9割であった。患者が173例、疑似症患者が37例、無症状病原体保有者が39例、感染症死亡者と感染症死亡疑い者がそれぞれ1例で、肺結核が137例、その他の結核(結核性胸膜炎、腸結核、結核性リンパ節炎等)が44例であった。宮崎市(82例)、都城(41例)、日南(33例)保健所からの報告が多かった。男性が102例、女性が71例で、70歳代が2割、80歳代が3割を占めた。

3) 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症60例と腸チフス1例が報告された。

a) 腸管出血性大腸菌感染症

Enterohemorrhagic *Escherichia coli* infection

報告総数は60例で、宮崎市(36例)、都城(16例)保健所からの報告が多かった。集団感染の事例は宮崎市保健所管内から1件あり、7~8月に保育園児を中心に20名強のO26感染がみられた。O型別の報告数では、O26が30例、O157が20例と多かった。年齢別では、4歳以下の報告が約半数と多く、7月に最も多く発生している。

b) 腸チフス Typhoid fever

報告総数は1例で、中央保健所からの報告であった。県内では6年ぶりの報告で、患者はバングラデシュへの渡航歴のある30歳代の男性(外国人)であった。

4) 四類感染症

A型肝炎1例、つつが虫病22例、日本紅斑熱5例、レジオネラ症1例、レプトスピラ症1例が報告された。

a) A型肝炎 Hepatitis A

報告総数は1例で、中央保健所からの報告であった。患者は40歳代の女性で全身倦怠感、肝機能異常がみられた。IgM抗体が検出された。

b) つつが虫病

Scrub typhus (Tsutsugamushi disease)

報告総数は22例で、前年の6割と少なかった。季節的には例年どおり冬季に多発した。都城(8例)、小林(6例)保健所からの報告が多く、延岡、高千穂保健所からの報告はなかった。男性が10例、女性が12例で、50歳代・60歳代が各6例、40歳代・80歳代が各4例、70歳代が2例であった。主な症状として頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹等がみられた。山林や草むらでの作業による感染が多く、痂皮からの病原体検出やペア血清での抗体価の有意な上昇等により確認された。

c) 日本紅斑熱 Japanese spotted fever

報告総数は5例で、5~8月に宮崎市(3例)、日南・高鍋(各1例)保健所からの報告であった。男性が3例、女性が2例で、60歳代が3例、40歳代と80歳代が各1例であった。主な症状として発熱、頭痛、発疹等がみられた。血清抗体の検出やペア血清での抗体価の有意上昇等により確認された。

d) レジオネラ症 Legionellosis

報告総数は1例で、都城保健所からの報告であった。患者は70歳代の男性で肺炎型であった。主な症状として発熱、咳嗽、意識障害等がみられた。

e) レプトスピラ症 Leptospirosis

報告総数は1例で、延岡保健所からの報告であった。60歳代の男性で、発熱、腎不全等がみられた。血清抗体が検出された。

5) 五類感染症

アメーバ赤痢6例、ウイルス性肝炎7例、急性脳炎12例、クロイツフェルト・ヤコブ病1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群3例、ジアルジア症1例、梅毒11例、破傷風8例、風しん2例、麻しん1例が報告された。

a) アメーバ赤痢 Amebic dysentery

報告総数は6例で、全て腸管アメーバ症であった。宮崎市(3例)、日南(2例)、都城(1例)保健所からの報告であった。男性が5例、女性が1例で、40歳代・50歳代が各3例であった。主な症状として、下痢、発熱等がみられた。1例はSTDと考えられた。

b) ウイルス性肝炎 Viral hepatitis

報告総数は7例で、宮崎市(4例)、都城(2例)、中央(1例)保健所からの報告であった。B型が6例、C型が1例であった。男性が5例、女性が2例で、20歳代・30歳代が各2例、40歳代・50歳代・70歳代が各1例であった。

c) 急性脳炎 Acute encephalitis

報告総数は12例で、宮崎市(10例)、延岡(2例)保健所からの報告であった。0歳が2例、1-4歳が3例、5-9歳が2例、10-14歳が4例、40歳代が1例であった。発症病原体はHHV6が4例、インフルエンザAH1pdmが4例、インフルエンザAが1例、不明が3例であった。主な症状として発熱、痙攣、意識障害等がみられた。

d) クロイツフェルト・ヤコブ病

Creutzfeldt-Jakob disease

報告総数は1例で、古典型クロイツフェルト・ヤコブ病であった。中央保健所からの報告で、70歳代の男性であった。主な症状として、進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状等がみられた。

e) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

Severe invasive streptococcal infections

報告総数は1例で、中央保健所からの報告であった。70歳代の男性で、肝不全、腎不全、ショック等の症状を呈した。病原体の血清型はA群であった。

f) 後天性免疫不全症候群

Acquired immunodeficiency syndrome

報告総数は3例で、都城(2例)、延岡(1例)保健所からの報告であった。すべて男性で20歳代・30歳代・50歳代が各1例で、無症候キャリアが1例、AIDSが2例であった。

g) ジアルジア症 Giardiasis

報告総数は1例で、宮崎市保健所からの報告であった。80歳代の男性であり、胆管炎を発症した。

h) 梅毒 Syphilis

報告総数は11例で、宮崎市(7例)、小林(2例)、延岡・日南(各1例)保健所からの報告であった。男性が8例、女性3例で、20歳代が6例、40歳代が3例、30歳代・80歳代が各1例であった。早期顕症I期が3例、早期顕症II期が4例、晩期顕症が1例、無症状病原体保有者が3例であった。

i) 破傷風 Tetanus

報告総数は8例で、中央(4例)、宮崎市・都城(各2例)保健所からの報告であった。男女同数で、70歳代が4例、80歳代が3例、50歳代が1例であった。創傷部からの感染と思われるものが6例であった。

j) 風しん Rubella

報告総数は2例で、宮崎市・延岡(各1例)保健所から報告された。30歳代の男性と10歳代の女性が各1例で、どちらも検査確定例であった。前者はワクチン接種歴無しで、後者は1回接種済みであった。

k) 麻しん Measles

報告総数は1例で、都城保健所からの報告であった。10歳代の女児で、臨床診断例でコプリック斑がみられた。ワクチンは1歳時に1回接種済みであった。

2. 定点把握対症疾患の発生状況

1) インフルエンザ及び小児科対象疾患

報告総数は 87,337 人(定点あたり 1872.6)で、前年、例年ともに 125%と増加した。また全国に比べても 156%と多かった。

前年との比較では、百日咳が 4.8 倍、インフルエンザが 1.6 倍、伝染性紅斑と水痘が 1.3~1.2 倍と多く、ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症、突発性発疹、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎がほぼ同じ、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎が約 8 割、咽頭結膜熱、手足口病が約 3~5 割と少なかった。

例年との比較では、百日咳が 12.5 倍、インフルエンザ、RS ウイルス感染症が 1.7 倍と多く、水痘、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発疹、流行性耳下腺炎がほぼ同数、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑が 6~8 割、手足口病、咽頭結膜熱が約半数と少なかった。

全国との比較では、全疾患において多かった。百日咳が 6.7 倍、RS ウイルス感染症が 3.8 倍、水痘、手足口病、突発性発疹、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎、咽頭結膜熱、伝染性紅斑、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザが 2.1~1.3 倍であった。

各疾患の発生状況の概要を Table2 に、経時的発生状況を Fig.1 に示した。その概略は以下のとおりであった。

a) インフルエンザ Influenza

2009/2010 年インフルエンザシーズンの報告総数は、32,625 人(定点当たり 553.0)で、前シーズンの 1.6 倍、例年の 1.7 倍、全国と比較しても 1.4 倍となった。新型インフルエンザの発生により過去 10 年で最も多い報告数となった。地域別では都城(663.6)、延岡(656.0)、小林(641.2)保健所からの報告が多く、年齢別では 0-5 歳が 26%、6-9 歳が 29%、10-14 歳が 27%を占めた。

新型インフルエンザについては 6 月中旬(第 25 週)に県内で初めて確認された。10 月下旬(第 43 週)に県内全域に注意報、11 月上旬(第 45 週)に警報が発令され、11 月下旬(第 48 週)にはピークに達した。流行期間も長く、15 週連続で定点当たりの報告数が 10 人を超した。7 月以降に当所で分離されたインフルエンザウイルスはすべて AH1pdm であった。2009 年第 25 週から 2010 年第 14 週までの報告総数は 33,732 人(定点当たり 571.7)で、

地域別では都城(677.2)、延岡(672.9)、小林(668.8)、宮崎市(660.4)保健所からの報告が多く、年齢別では 0-5 歳が 26%、6-9 歳が 29%、10-14 歳が 27%を占めた。また 2009 年第 30 週からの新型インフルエンザによる県内の各累積数は、集団発生件数 429 件、入院患者数 256 人、重症患者数 15 人、死亡者数 4 人となった。

b) RS ウイルス感染症

Respiratory syncytial virus

報告総数は 1,566 人(定点あたり 43.5)で、前年とほぼ同数、例年の 1.7 倍、全国の 3.8 倍と多かった。日向(121.3)、延岡(102.5)、保健所からの報告が多く、最も多かった日向保健所管内と少なかった高千穂保健所管内では 121 倍の差がみられた。1 歳が最も多く全体の約 3 割、2 歳以下で約 9 割を占めた。当県における年末の患者数は全国を大きく上廻った。

c) 咽頭結膜熱 Pharyngoconjunctival fever

報告総数は 655 人(定点あたり 18.2)で、前年及び例年の 5 割、全国の 1.6 倍であった。日南(83.0)、延岡(29.3)、都城(27.3)保健所からの報告が多く、最も多かった日南保健所管内と少なかった高千穂保健所管内では 83 倍の差がみられた。1 歳が最も多く全体の約 3 割、6 ヶ月から 3 歳で約 7 割を占めた。

d) A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

Group A streptococcal pharyngitis

報告総数は 3,722 人(定点あたり 103.4)で、前年の 9 割、例年とほぼ同数、全国の 1.4 倍であった。延岡(252.3)、日向(198.3)、日南(113.0)保健所からの報告が多く、最も多かった延岡保健所管内と少なかった高千穂保健所管内では 28 倍の差がみられた。3 歳から 6 歳で全体の約 6 割を占めた。

e) 感染性胃腸炎 Infectious gastroenteritis

報告総数は 17,062 人(定点あたり 473.9)で、前年及び例年の 8 割、全国の 1.8 倍であった。小林(835.7)、都城(644.8)、日南(590.3)保健所からの報告が多かった。1 歳が最も多く全体の約 2 割、1 歳から 4 歳で約半数を占めた。

f) 水痘 Varicella

報告総数は 5,101 人(定点あたり 141.7)で、前

年の1.2倍、例年とほぼ同数、全国の2.1倍と多かった。延岡(178.5)、都城(162.7)、宮崎市(159.1)保健所からの報告が多かった。1歳が最も多く全体の約3割、1歳から4歳で約8割を占めた。

g) 手足口病 Hand, foot and mouth disease

報告総数は1,565人(定点あたり43.5)で前年の3割、例年の半数、全国の1.9倍であった。延岡(99.0)、日向(76.5)保健所からの報告が多かった。1歳が最も多く全体の約半数、6ヵ月から2歳で全体の7割を占めた。

h) 伝染性紅斑 Erythema infectiosum

報告総数は303人(定点あたり8.4)で、前年の1.3倍、例年の約6割と少なく、全国の1.5倍であった。特に流行の時期はみられなかった。日南(24.3)、宮崎市(16.7)保健所からの報告が多く、最も多かった日南保健所管内と少なかった高千穂保健所管内では24倍の差がみられた。3歳から7歳で全体の約6割を占めた。

i) 突発性発しん Exanthem subitum

報告総数は2,064人(定点あたり57.3)で、前年及び例年の約9割、全国の1.8倍であった。延岡(74.3)、宮崎市(67.9)、都城(65.7)保健所からの報告が多かった。6ヵ月から11ヵ月が最も多く全体の約6割を占め、6ヵ月から1歳で全体の約9割を占めた。

j) 百日咳 Pertussis

報告総数は416人(定点あたり11.6)で、前年の4.8倍、例年の12.5倍、全国の6.7倍と多かった。延岡(82.8)、高鍋(12.3)保健所からの報告が多く、最も多かった延岡保健所と少なかった高千穂・中央保健所管内では83倍の差がみられた。すべての年齢層から報告されたが、10歳未満が全体の約8割を占めた。平成21年は例年より患者数が多く、第7週から33週までに多発であったが、35週以降は例年並みに復した。全国的に患者増加は認められていなかった。

k) ヘルパンギーナ Herpangina

報告総数は1,643人(定点あたり45.6)で、前年とほぼ同数、例年の約7割と少なく、全国と比べると1.8倍であった。延岡(74.0)、日向(68.5)、都城(47.7)保健所からの報告が多かった。1歳が最も多く全体の約4割、6ヵ月から3歳で約8割

を占めた。

1) 流行性耳下腺炎 Mumps

報告総数は2,129人(定点あたり59.1)で、前年の8割、例年の9割、全国の1.7倍であった。小林(164.3)、延岡(123.3)、都城(81.8)保健所からの報告が多く、最も多かった小林保健所管内と少なかった高鍋保健所管内では20倍の差がみられた。2歳から6歳で全体の約7割を占めた。

2) 眼科及び基幹定点報告疾患

眼科対象疾患の報告総数は500人(定点あたり83.3)で、前年とほぼ同数、例年の約7割、全国の約3.3倍であった。

基幹定点把握対象疾患の報告総数は60人(定点あたり8.6)で、前年の約8割、例年の約7割、全国の約4割と少なかった。

a) 急性出血性結膜炎

Acute hemorrhagic conjunctivitis

報告総数は4人(定点あたり0.7)で、前年の2倍、例年の約4割、全国の約9割と少なかった。宮崎市・延岡(各1.0)保健所からの報告で、3歳と10歳代が1人、20歳代が2人であった。

b) 流行性角結膜炎 Epidemic keratoconjunctivitis

報告総数は496人(定点あたり82.7)で、前年とほぼ同数、例年の約7割、全国の約3.3倍であった。宮崎市(117.3)、延岡(83.0)保健所からの報告が多く、20歳代と30歳代で約半数を占めた。

c) 細菌性髄膜炎 Bacterial meningitis

報告総数は8人(定点あたり1.1)で、前年の約9割、例年の約8割、全国の1.3倍であった。宮崎市・都城(各3.0)、延岡・日南(各1.0)保健所からの報告で、0歳が50%、1-4歳が38%を占めた。

d) 無菌性髄膜炎 Aseptic meningitis

報告総数は12人(定点あたり1.7)で、前年及び例年の約4割、全国の1.2倍であった。宮崎市(6.0)、延岡・日南(各3.0)保健所からの報告で、0歳が42%と最も多く、5-9歳が25%、1-4歳が17%であった。

e) マイコプラズマ肺炎 Mycoplasmal pneumonia

報告総数は31人(定点あたり4.4)で、前年の約1.3倍、例年の約7割、全国の約2割であった。延岡(18.0)、都城(9.0)保健所からの報告が多く、

5-9歳が39%、10-14歳が29%、1-4歳が23%と多かった。

f) クラミジア肺炎 *Chlamydial pneumonia*

報告総数は9人(定点あたり1.3)で、前年の約6割、例年の2.5倍、全国の約1.1倍であった。高鍋(7.0)、小林(2.0)保健所からの報告で、1-4歳が全体の67%を占めた。

3) 月報告対象疾患

性感染症の報告総数は526人(定点あたり40.5)で、前年の86%、例年の60%、全国の80%と少なかった。

薬剤耐性菌感染症の報告総数は506人(定点あたり72.3)で、前年の118%、例年、全国の121%であった。

a) 性器クラミジア感染症

Genital chlamydial infection

報告総数は318人(定点あたり24.5)で、前年の約8割、例年の約7割、全国の約9割であった。日向(53.0)、都城(34.5)、宮崎市(30.5)保健所からの報告が多かった。男女ほぼ同数で、20歳代が全体の約4割、30歳代が約3割を占めた。

b) 性器ヘルペスウイルス感染症

Genital herpetic infection

報告総数は72人(定点あたり5.5)で、前年の約8割、例年の約6割、全国の約7割であった。宮崎市(10.5)、高鍋(8.0)保健所からの報告が多かった。男性が約4割、女性が約6割で、20歳代が全体の約4割、30歳代と40歳代がともに約2割を占めた。

c) 尖圭コンジローマ *Condyloma acuminatum*

報告総数は34人(定点あたり2.6)で、前年とほぼ同数、例年の約8割、全国の約半数であった。宮崎市(6.5)、高鍋(2.5)保健所からの報告が多かった。男性が約7割、女性が約3割で、30歳代が全体の約4割、20歳代が約3割を占めた。

d) 淋菌感染症 *Gonorrhea*

報告総数は102人(定点あたり7.9)で、前年とほぼ同数、例年の約4割、全国の約8割であった。都城(20.0)、日南(9.0)保健所からの報告が多かった。男性が9割、女性が1割で、30歳代と20歳代で全体の約6割を占めた。

e) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

Methicillin-resistant Staphylococcus aureus infection

報告総数は349人(定点あたり49.9)で、前年、例年、全国とほぼ同数であった。宮崎市(115.0)、小林(55.0)、日南(54.0)保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約7割を占めた。

f) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

Penicillin-resistant Streptococcus pneumoniae infection

報告総数は156人(定点あたり22.3)で、前年の2.1倍、例年の2.3倍、全国の2.2倍であった。宮崎市(135.0)、高鍋(17.0)、延岡(4.0)保健所からの報告で、4歳以下が全体の約7割を占めた。

g) 薬剤耐性緑膿菌感染症

Multidrug-resistant Pseudomonas aeruginosa infection

報告総数は1人(定点あたり0.1)で、前年、例年の約1割、全国の約2割であった。宮崎市(0.1)保健所からの報告で、60歳代であった。

まとめと考察

全数把握対象疾患のうち、結核は県内全域で2歳から90歳代まで幅広い年齢層で報告されたが、高齢者の発症数が約6割と多かった。腸チフスは海外での感染例で6年ぶりの報告であった。

5類感染症のうち、定点把握疾患のインフルエンザと小児科対象疾患の報告総数は、前年、例年の125%、全国と比べても156%と非常に多かった。

疾患別にみると百日咳、インフルエンザ、RSウイルス感染症の報告が非常に多く、流行の年であった。

インフルエンザの報告総数は、新型インフルエンザの発生により前年の1.6倍、例年の1.7倍、全国の1.4倍と多かった。7月以降当所で分離されたインフルエンザウイルスはすべてA/H1pdmであった。

また、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、百日咳は、特定地域に偏って大きな流行が発生しており、感染症の流行に地域差が見られた。

眼科疾患の報告総数は、前年とほぼ同数であっ

たが、例年の約7割と減少傾向である。しかし、全国と比べると約3.3倍で依然として多い状況である。

性感染症の報告総数は、前年の約9割、例年の約6割と減少し、年々減少傾向がみられる。また、全国と比べても約8割と少なかった。年齢別では、20歳代前半から30歳代の報告が多くなっている。

今年の調査結果から、流行発生時期のずれや、他の地域と異なる流行状況を示す疾患があることも確認され、地域的な発生動向調査の重要性が示

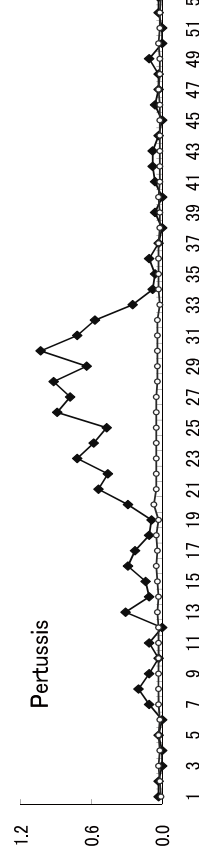
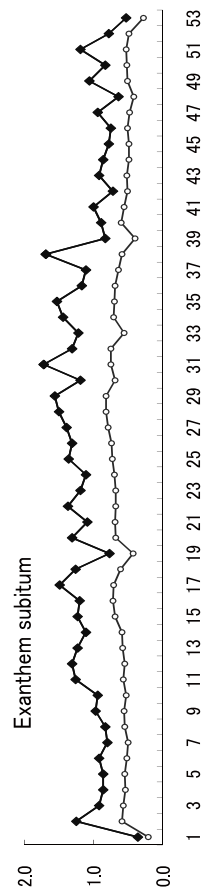
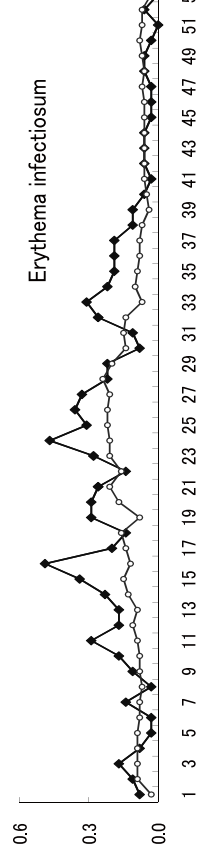
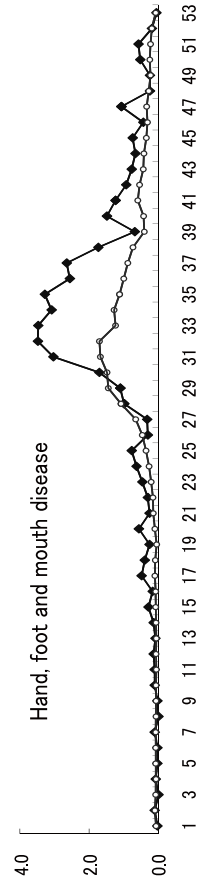
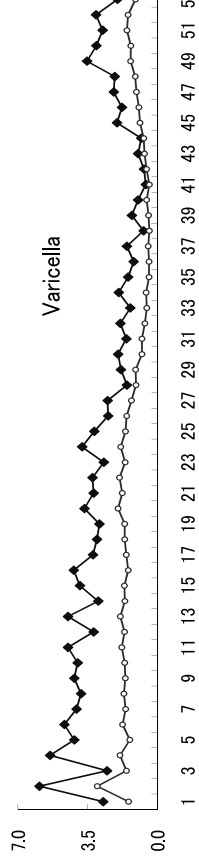
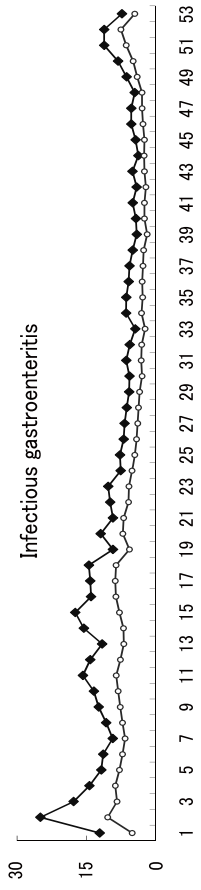
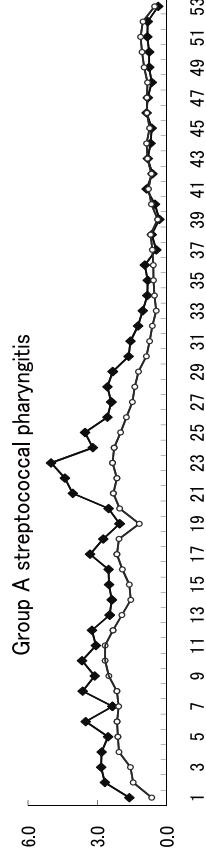
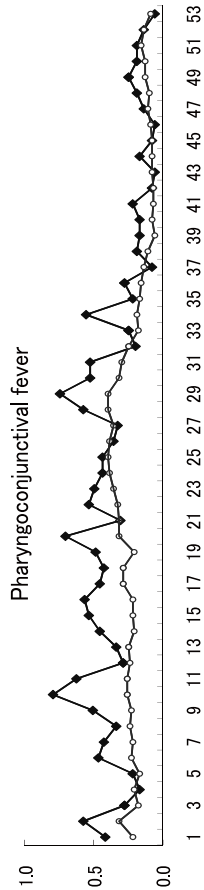
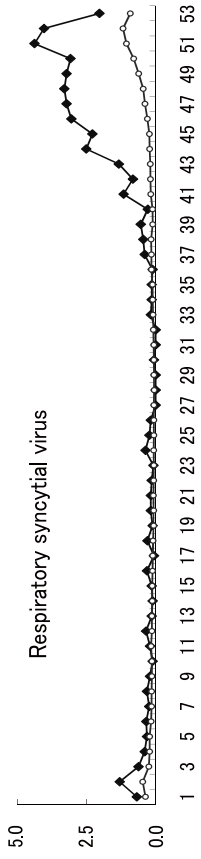
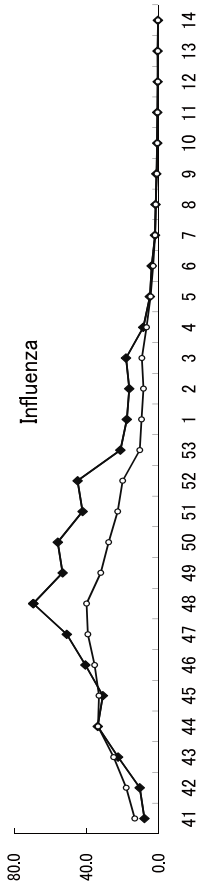
された。今後も引き続きデータの集積を行い感染症の発生動向に注意していくとともに、適切な情報の提供と感染予防への啓発は若年齢層から行っていく必要がある。

備考)

感染症発生動向調査事業は、患者情報と病原体情報から構成されており、当所においては後者は微生物部において情報が得られている。

Table 1 The number of the sentinel clinics and hospitals by the health center

Health center	Number of the sentinel clinics and hospitals				
	Influenza disease	Pediatric diseases	Ophthalmic diseases	Diseases reported from specially-designated sentinel clinics	Sexually-transmitted disease
Miyazaki-city	15	9	3	1	4
Miyakonojo	10	6	2	1	2
Nobeoka	7	4	1	1	2
Nichinan	5	3		1	1
Kobayashi	5	3		1	1
Takanabe	6	4		1	2
Takachiho	2	1			
Hyuga	6	4		1	1
Chuo	3	2			
total	59	36	6	7	13



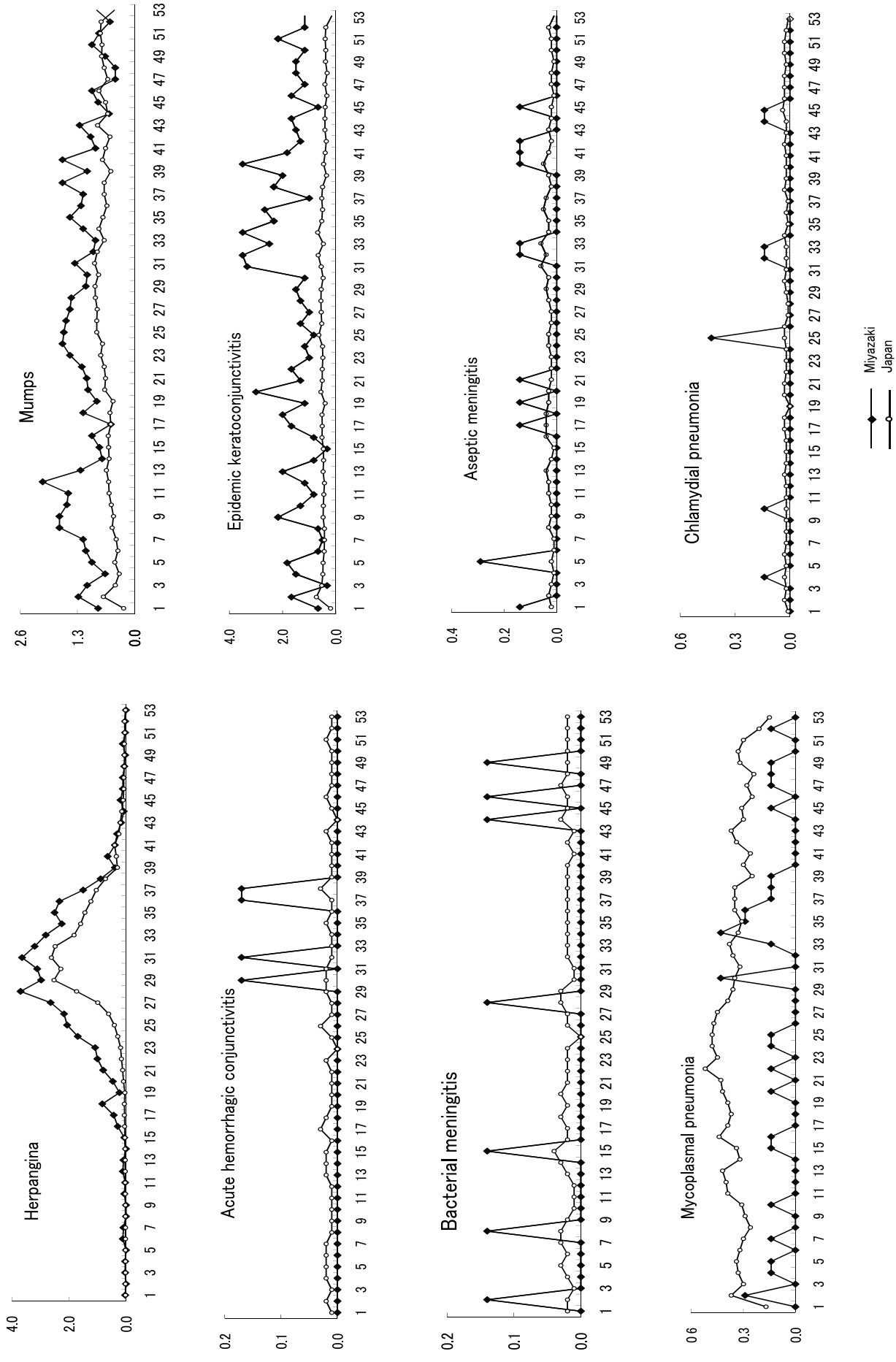


Fig.1 Weekly report of category V Influenza , Pediatrics diseases and Diseases reported from specially-designated sentinel clinics .

Table 2 Summary of incidence of the category V diseases in Miyazaki prefecture.

Disease name	Number of the reports	Number of the reports per a sentinel	Age distribution		The ratio against Miyazaki (2008) (%)	The ratio with average of the past five years (%)	The ratio against Japan (2009) (%)
			Major age group	Ratio※ (%)			
Influenza	32625	553.0	1-9	54	159	167	139
Respiratory syncytial virus	1566	43.5	10-14	26	95	173	375
Pharyngocconjunctival fever	655	18.2	≤2	91	48	51	159
Group A streptococcal pharyngitis	3722	103.4	6M-3	73	91	98	141
Infectious gastroenteritis	17062	473.9	3-6	57	80	82	176
Varicella	5101	141.7	1-4	49	125	103	211
Hand, foot and mouth disease	1565	43.5	1-4	75	27	54	192
Erythema infectiosum	303	8.4	1-2	68	134	57	147
Exanthem subitum	2064	57.3	3-7	60	95	91	183
Pertussis	416	11.6	6M-1	93	484	1252	672
Herpangina	1643	45.6	<10	80	104	71	182
Mumps	2129	59.1	6M-3	82	76	85	171
Acute hemorrhagic conjunctivitis	4	0.7	2-6	74	200	38	89
Epidemic keratoconjunctivitis	496	82.7	20's	50	102	68	333
Bacterial meningitis	8	1.1	20's-30's	46	89	75	111
Aseptic meningitis	12	1.7	≤4	88	43	45	124
Mycoplasma pneumoniae	31	4.4	0	42	129	70	24
Chlamydia pneumoniae	9	1.3	1-9	42	60	250	109
Genital chlamydial infection	318	24.5	1-4	67	81	68	90
Genital herpes infection	72	5.5	20's-30's	70	82	63	68
Condyloma acuminatum	34	2.6	20's-40's	79	97	77	48
Gonorrhea	102	7.9	20's-30's	74	103	41	81
Methicillin-resistant <i>Staphylococcus aureus</i> infection	349	49.9	20's-40's	83	100	102	101
Penicillin-resistant <i>Streptococcus pneumoniae</i> infection	156	22.3	≥70's	67	214	234	218
Multidrug-resistant <i>Pseudomonas aeruginosa</i> infection	1	0.1	≤4	74	14	10	14

※ Ratio for the number of all report.